

手引き

# 古文の特徴をつかむ

一、古文とは…

日本の古い時代（主に江戸時代まで）の文章のことをいいます。  
和歌・物語・随筆（ずいひつ）・日記・紀行文などがあります。

理解の道すじ

二、古文の特徴をつかむには…

歴史的仮名づかいに慣れましょう。

平安時代中期の発音を基にした、古文に用いられる仮名づかいを歴史的仮名づかいといいます。

【主な歴史的仮名づかいと現代仮名づかいの対応】

・「あ」は「い」、「え」は「え」、「を」は「お」と読みます。  
【例】あゝある（居る） いる こゑ こゑ をとこ（男） おとこ

・語の頭がない「はひふへほ」は「わいうえお」と読みます。  
【例】思ふ 思う あはれ あわれ

・「ぢ」は「じ」、「づ」は「ず」と読みます。  
【例】もみぢ もみじ まづ まず

・「くわ」は「か」、「ぐわ」は「が」と読むことがあります。  
【例】くわし かし（菓子） いんぐわ いんが

省略された言葉を補って文脈をとらえましょう。

・主語の省略…冒頭部分で登場人物が示される場合が多いので、前後の文脈をよく考えましょう。敬語表現に気を付けて、主語を補うこともできます。

・助詞の省略…助詞「は」「が」「を」がよく省略されます。どんな助詞が入るのかは、前後の表現を見て判断しましょう。

古語の意味を理解しましょう。

・特に、現代と違う意味で使われていた語や現代は使われていない語に注意しましょう。

あさまし	意外なことに驚く	いと	とても、非常に
あはれなり	しみじみとした趣 <small>おもむき</small> がある	いみじ	たいそう、すばらしい、ひどい
あやし	不思議だ	さらなり	言うまでもない
うつくし	かわいらしい	はべり	〜でございます、おそばに控 <small>ひか</small> える
おどろく	はっと気付く、目を覚ます	ゆかし	見たい、聞きたい、知りたい
をかし	趣 <small>おもむき</small> がある	わろし	よくない
めでたし	すばらしい、みごとだ	げに	本当に
ゐる	座る	つとめて	早朝

